

# 平成26年度 学校評価総括評価表

## 徳島県立徳島視覚支援学校

### (1) 重点課題

視覚支援学校と併置された聴覚支援学校との連携・協働により、「つながる」を合い言葉として、「幼児・児童生徒の夢と希望につながる保育・教育」を推進する。

#### ① 学びがにつながる

視覚支援学校と聴覚支援学校で学ぶ幼児・児童生徒が、互いに認め合い、ともに高め合う保育・教育を推進することにより、豊かな心を育む。

#### ② 未来につながる

幼稚部から小学部、中学部、高等部、高等部専攻科における、専門性の高い一貫した保育・教育により、社会に主体的に参加し、自立をめざす人を育てる。

#### ③ 地域とつながる

特別支援教育センターとして、視覚障がい等のある幼児・児童生徒に対する専門的な支援を全県展開するとともに、障がいのある方の交流拠点として、生涯をととした活動を支援する。また、防災避難施設として地域の方々の安全を守る。

#### ④ 心がつながる

思いやりと支え合いの心に満ちた人間性豊かな社会を築くため、学校と保護者、地域、関係機関・団体等が連携し、視覚障がいに関する理解の推進に努める。

### (2) 重点目標

① 視覚障がい教育に関する研修と公開授業、OJTによる授業力の向上等により、教職の専門性を向上します。

② 幼児・児童生徒一人一人の人権を最大限に尊重するとともに、全教職員がいじめのない学校づくりに努めます。

③ 幼児・児童生徒の発達段階をふまえたキャリア教育の推進を図ります。

④ 視覚支援学校と聴覚支援学校の幼児・児童生徒および教職員が、安心・安全な学校生活を送るための環境設定やルールづくりを推進します。

⑤ 聴覚支援学校の学習や行事の見学等を通して、ともに学ぶ教育の構築に向けた取り組みを推進します。

⑥ 特別支援教育センターとしての機能を十分に発揮し、視覚障がい等のある幼児・児童生徒に対する専門的な支援を全県展開します。

⑦ 防災避難施設として、地域の人々と連携した防災訓練等を行います。

⑧ 生涯学習の拠点として、視覚障がいのある人の学びや活動を支援します。

⑨ 奉仕活動や啓発活動を通して、地域とのつながりを深めるとともに、視覚障がいに対する理解の推進を図ります。

重点課題	①学びがつながる 視覚支援学校と聴覚支援学校で学ぶ幼児・児童生徒が、互いに認め合い、ともに高め合う保育・教育を推進することにより、豊かな心を育む。				
重点目標	④視覚支援学校と聴覚支援学校の幼児・児童生徒および教職員が、安心・安全な学校生活を送るための環境設定やルールづくりを推進します。				
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
寄宿舎	・視覚・聴覚の舎生と職員合同の防災訓練を実施し、安全な避難経路の確保と、防災意識の向上を図る。	・年間3回以上の合同避難訓練を実施し、舎生と職員が事前学習と事後学習を行い避難経路の確認や危険箇所の改善を図る。	・5月と9月に火災と地震・津波の合同避難訓練を実施した。訓練前後には学習を行い感想、反省など話し合いをした。1月の合同火災避難訓練ではスムーズな避難ができた。安全面では、避難経路の問題箇所の対策を要望し、順次改善している。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舎生の現状に合わせて防災学習を繰り返し行うことが大切なので、引き続き防災意識を高める環境作りを推進していく。また、定期的に避難経路を含め寄宿舎内外の安全確認を行う必要がある。</li> <li>・自治会や行事の内容をその都度検討し、理解してほしい内容を職員を介して対話したり個別にも対応していく。</li> </ul>
	・自治会活動や、日常の生活を通して、お互いの障がいの特性を知る。	・自治会などで、お互いの障がいについて考える機会を、年間3回以上持つ。	・新年度に合同で生活のルールを伝え、お互いのことを理解し、どのように関わればよいか考える機会を持った。2学期は2回の合同行事で交流を深めた。自治会では、舎生同士の関わり方や生活留意点をくり返し話することでお互いの特性を理解しつつある。		

教務課	<p>・両校のスムーズな授業展開のため、チャイム設定時刻の調整や共有教室の調整方法について聴覚支援学校と連携を図る。</p>	<p>・各学期末に授業等で不都合が生じていないかを職朝掲示板を用いて教職員への確認を行う。</p>	<p>・チャイムについては、現況では入切しかできない為、両校で協力しあいながら授業を展開した。体育館でどちらかが式典を行う等の時に、体育館だけでチャイムの入切ができるシステムになれば、生徒の授業に支障が出にくくなる為、整備に向けて取り組んでいる。</p> <p>・共有教室の調整方法についても、2学期を終えて意見を聞いたところ、若干の方法変更が必要などところも出てきた。</p>	B	<p>・「検討事項が具体的に見つかった」という点では、充分、計画を実施された効果が見られたと思われる。</p>	<p>・共有教室使用についての手続き方法、学部会等の会議場所の再検討など、併置1年目を終えての見直し箇所もいくつかあがってきた。両校で話し合いを持って次年度がよりスムーズに運用できるよう取り組みたい。</p>
-----	--	---	---	---	---	--

重点課題	①学びがつながる					
	視覚支援学校と聴覚支援学校で学ぶ幼児・児童生徒が、互いに認め合い、ともに高め合う保育・教育を推進することにより、豊かな心を育む。					
重点目標	⑤聴覚支援学校の学習や行事の見学等を通して、ともに学ぶ教育の構築に向けた取り組みを推進します。					
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見		
幼稚園部	・両校の幼児がかかわり合う保育活動を実施する。	・自由遊びでの自然なかかわりを含め、幼児がかかわり合う機会を年間7回以上実施する。	・本校幼児の写真を聴覚支援学校幼稚部に提供し、友だちへの意識づくりとした。パンジーの花摘みなど、子ども同士のふれあいを意図した計画的な交流を行った。また、教員がきっかけをつくることで、自然なかかわりができた。それらを含めて、計16回の活動を行った。	A	・併置に至るまでの取り組みでは苦勞が多かったのではないかと。学校見学時の幼児の生き生きとした表情が伝わり、共に学ぶという目標も十分達成されている。今後も交流の取り組みを継続してほしい。	・次年度は、両校の教員が話し合う機会をもち、互いの保育のねらいについて情報交換したい。 ・互いの保育を知るため、保育計画を交換し合えたことは有効であったため、引き続き行う。 ・両校に共通する大きな季節行事等は、事前にその取り組み方を情報交換し、人的にも物的にも連携し合えるようにしたい。 ・さまざまな場面を参観できるよう、聴覚支援学校の保育の参観方法を工夫したい。
	・互いの保育に有益な情報提供や教材の貸し借りをを行う。	・学校近隣の店舗や自然物の有無の情報提供、教材の貸し借り等を年間10回以上実施する。	・互いが所有している遊具や自作教材を貸し借りしたり、アジサイやパンジー等の季節の自然物を提供し合ったりすることが計17回あった。また、落ち葉のある場所を知らせたり、押し花の作り方の情報提供をしたりする等、互いの保育を深めるやりとりをした。			
	・聴覚支援学校の保育を参観する。	・幼稚部教員全員が、聴覚支援学校の保育を年間1回以上参観する。	・教員全員が、聴覚支援学校の保育を参観した。同様に、聴覚支援学校の教員も、本校の保育を参観し、互いに疑問や気づきを交換し合った。			

小学部	<p>・聴覚支援学校小学部との交流や共同学習を通して親交や相互理解を深め、同じ場所で学んでいる仲間であることを体感する。</p>	<p>・年間3回以上の学年交流や共同学習、聴覚支援学校の行事の見学等を行う。それぞれの児童の方法で、聴覚支援学校の児童との挨拶や交流ができる。 ・教員は、事後に毎回成果や課題についての検討会を行い、その結果をもとに、年度末には次年度の活動計画を立てる。</p>	<p>・聴覚支援学校文化祭の見学、低学年給食交流、共同学習(2月予定)と年間3回の交流を実施した。お互いの名前を覚え、言葉を交わす機会も増え、少しずつ身近な仲間としての意識が芽ばえ始めている。事後には毎回検討会を持ち、成果や課題についての話し合いを行った。</p>	B		<p>・今年度は併置初年のため、計画的な実施が難しかった。今年度の事後検討会で出された成果や課題をもとに、来年度は年度初めに両校で話し合いを行い、計画的に交流を図りたい。</p>
中学部	<p>・聴覚支援学校中学部と学習や行事だけでなく、休み時間や給食等も交流し、相互理解へとつなげる。</p>	<p>・年間5回以上、学習や行事、学部だよりのやり取りや、給食での定期的な交流を行う。また、実施後は成果や課題について振り返りを行い、事後に活かす。</p>	<p>・主に聴覚支援学校中学部重複学級と交流を行い、年間を通じて給食、休み時間での交流を行った。休み時間は、昼休みに聴覚支援の教室に行き、教員を介して話をするなどの交流を行った。また、廊下で会うと挨拶を交わすこともできた。11月には聴覚支援学校中学部重複学級主催のハロウィンパーティーに招待され、一緒にゲームをするなどして交流を深められた。それぞれの交流とも、お互いの学校の生徒が笑顔で交流でき、教員を介してやり取りを楽しむことができた。3学期には、重複学級だけでなく普通学級の卒業学年とも給食を通じて交流を行った。</p>	A	<p>・次年度への課題や改善方針について、生徒の現状をきちんと把握し、具体的な活動計画に反映されるようにしてほしい。</p>	<p>・来年度生徒が入学生ばかりとなり、生徒の実態が大きく変わる。そのため聴覚支援学校の教員とも話し合い、来年度生徒の実態に合ったより良い交流ができるようにしていきたいと考えている。</p>

生徒活動課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ運動や交通安全指導, 第40回中国四国地区盲学校弁論大会校内選考会, 文化祭, 平成26年度文化芸術による子どもの育成事業などの学校行事等について, 立案時より聴覚支援学校との連携を図り, 相互に見学や活動が実施できるよう計画を立てることで, ともに学ぶ教育の機会を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ運動や交通安全指導を月2回実施する。</li> <li>・第40回中国四国地区盲学校弁論大会校内選考会, 文化祭, 平成26年度文化芸術による子どもの育成事業などの学校行事において, 相互に見学や活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ運動や交通安全指導を月2回実施している。7月4日には, 徳島東警察署の指導のもと, 聴覚支援学校と一緒に交通マナーアップ推進月間県民運動に参加し, 交通安全の啓発を図った。</li> <li>・弁論大会校内選考会では, 聴覚支援学校の中・高等部の生徒が聴衆として参加した。また, 手話パフォーマンス甲子園予選に聴覚支援学校との合同チームとして応募した。文化祭では, 聴覚支援学校の児童生徒が多数参加し, 一緒に活動した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両校併置のプラス面がすぐにみられた「ともに学ぶ教育の取り組み」としてすばらしいと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ運動や交通安全指導を継続して行う。</li> <li>・聴覚支援学校との連携をより一層深めるために, 行事や交通安全でともに活動する機会を持つ。連携の窓口を一本化し, 担当者を明確にするとともに, 計画の確認を行いながら実施する。</li> </ul>
-------	--	---	---	---	--	--

重点課題	②未来につながる 幼稚部から小学部、中学部、高等部、高等部専攻科における、専門性の高い一貫した保育・教育により、社会に主体的に参加し、自立をめざす人を育てる。					
重点目標	①視覚障がい教育に関する研修と公開授業、OJTによる授業力の向上等により、教職の専門性を向上します。					
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
		評価指標による達成度 及び活動計画の実施状況	総合評価 (評定)			
研究・ 情報課	・幼児・児童生徒の学力向上をめざし、授業研究とグループ研修を関連づけた専門研修を計画実施する。	・全教職員が各グループにおいて、年間5回以上研修を行う。	・「点字」「歩行」「教材研究」「日常生活」「特別支援教育」の研修グループごとに研修計画を立て、全7回の研修を行った。	A	・これからも継続して研修会を行い、教職員の専門性向上を図ってほしい。	・校内に新たに導入されたタブレット端末が授業実践や学習活動、生活支援において有効に活用されるように研修を計画する。 ・グループ研修の成果が授業実践で活かされるよう、研究授業、公開授業、研究協議会やグループ研修の連携や研究成果の共有を一層図ることで、全教職員の授業力を向上させる必要がある。
	・グループ研修で得た専門的な知識や技術を活かした研究授業や公開授業により、全教職員が授業力を向上させる。	・全教職員が1回以上、研究授業や公開授業を参観し、研究協議会に参加する。	・グループ研修での成果を活かした研究授業や公開授業3回を含む、9回の研究授業や公開授業を実施した。参観者はのべ123人であった。研究授業、公開授業、研究協議会やグループ研修の研究成果を共有し合うことで、全教職員が授業力を向上させることができた。			
	・視覚障がい教育に関する専門性を向上させるために、ICTスキル向上のための校内研修会を主催する。	・研修会についてのアンケートを実施し、「視覚障がい教育に関する専門性が向上した」と70%以上の参加者が回答する。	・研修会についてのアンケートでは97%の参加者が視覚障がい教育に関する専門性が向上した、と回答した。			

教務課	<p>・幼児・児童生徒の学力向上、教職員の授業力(専門性)向上のため、積極的に意見交換等が行えるよう、研究・情報課と連携して日程広報や時間割調整を行う。</p>	<p>・「年間2回以上の授業見学ができた」と80%以上の教職員が回答する。</p>	<p>・研究授業や公開授業の日程が決まる毎、職員朝礼にて広報し、授業参観するにあたり時間割の変更が必要な方は教務課へ申し出てもらうように取り組んだ。          ・全職員に調査を行ったところ(11月末現在)、計画的に参観をしており、すべての教職員から「2回以上、計画的に見学できた」との回答が得られた。</p>	A		<p>・引き続き研究・情報課との連携を図り、1回1回の授業を有効な研修になるよう調整を行っていききたい。</p>
小学部	<p>・視覚障がい教育の基礎と、個々の児童のニーズに応じた指導方法について学び、授業力の向上を図るため、計画的に研修を行う。</p>	<p>・歩行訓練士による講義や実技指導、各グループ研修での活動報告を含めた小学部内研修を年間10回以上行う。          ・年度末の専門性チェックリスト自己評価において、全員の点数がアップするように研修を行う。</p>	<p>・部内研修を11回実施した。児童に対する実際の歩行指導の様子や公開授業の様子を全員で参観し討議をしたり、中四盲研の発表原稿について全員で意見を出し合ったりすることで、専門性の向上や授業力の向上を図った。また、緊急対応訓練を実施し、個々の児童のニーズや配慮点の確認を行った。          ・年度末の専門性チェックリスト自己評価において全員の点数がアップした。</p>	A		<p>・次年度も計画的に研修を実施し、専門性の向上を図っていききたい。</p>



重点課題	②未来につながる 幼稚部から小学部, 中学部, 高等部, 高等部専攻科における, 専門性の高い一貫した保育・教育により, 社会に主体的に参加し, 自立をめざす人を育てる。					
重点目標	③幼児・児童生徒の発達段階をふまえたキャリア教育の推進を図ります。					
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見		
人権・キャリア教育課	・保護者と連携を図り, 家庭での役割を決めて, 手伝い等を行うチャレンジウィークを通して, 責任感を培い, 仕事を継続することのできる力の伸長をめざす。	・幼稚部から高等部普通科を対象に, 前期, 後期の各1週間実施する。 ・実施後の保護者アンケートで70%以上の満足度を得る。	・前期は, 93%実施できた。後期は冬休みに行い, 年末年始であったこともあり50%の実施であった。 ・保護者アンケートは, 後期終了後に実施し, 87%の満足度を得ることができた。	B	・児童生徒の現状から進路選択は厳しい状況であることが推察できるが, 「出口対応」については, より細やかな一層の対応策, 取り組みを希望する。	・家庭での取り組みやアンケート結果を検討し, 課題があれば改善する。 ・就業体験は, 生徒の実態やニーズ, 進路希望をもとに担任, 保護者と連携しながら今後も実施する。
	・就業体験, 事業所見学を実施し, 職業観・勤労観を育む。	・普通科では, 生徒の実態に合わせ年間1回以上の就業体験(職場見学), 職業学科では専攻科2年生を対象に年間2箇所以上の事業所見学を行う。	・高等部の普通科では5事業所, 専攻科では6事業所で就業体験や職場見学を行えた。中学部でも, 1事業所でインターンシップを実施した。			

<p>中学部</p>	<p>・キャリア教育推進の一環として、家庭と連携しチャレンジウィークに取り組み、家庭で手伝いをする事につなげる。</p>	<p>・夏期と冬期、各1週間チャレンジウィークに取り組み、それぞれ応援評価表の○以上の評価を3日以上得る。</p>	<p>・夏期では、長期休業に入る前の懇談で、保護者と取り組む内容について相談し、生徒が取り組みやすい内容を設定した。しかし、家庭の事情や体調等で夏期休業中に1週間取り組むことはできず、目標は達成できなかった。冬期は、夏期の反省をもとに保護者と相談し、授業で行っている内容をチャレンジウィークの内容として取り入れた。体調の関係で1週間は取り組めなかったものの、取り組めた日は○の評価を得ることができた。</p>	<p>B</p> <p>・チャレンジウィークは個々に応じて柔軟に対応ができる手だてのひとつで、生徒にとつての「必要性」と「家庭でのしやすさ・継続性」の調整に苦労があるだろうが、継続して取り組んでほしい。</p> <p>・今後、保護者アンケートの結果から、取り組みや改善のヒントが得られるだろう。</p> <p>・「やりたいこと・好きなこと」「向いていること」を増やす、見つけるにはどのような手だてがあるのか、先生方の経験や情報を校内で共有する場を設定するなど、お互いに取り組み方のヒントが得られる場が必要である。</p>	<p>・来年度生徒が入学生ばかりとなり、生徒の実態が大きく変わるが、チャレンジウィークは、キャリア教育を推進していく上で大事な取り組みであると考えられる。来年度も保護者と連携も図りながら、生徒の実態に応じた取り組みができるようにしていきたい。</p>
------------	--	---	--	--	---

重点課題	③地域とつながる 特別支援教育センターとして、視覚障がい等のある幼児・児童生徒に対する専門的な支援を全県展開するとともに、障がいのある方の交流拠点として、生涯をとおした活動を支援する。また、防災避難施設として地域の方々の安全を守る。					
重点目標	⑥特別支援教育センターとしての機能を十分に発揮し、視覚障がい等のある幼児・児童生徒に対する専門的な支援を全県展開します。					
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見		
サポート課	・県内の全市町村の教育、医療、保健福祉等の機関との連携作りを行う。	・県内の全市町村の、教育、医療、保健福祉のいずれかの機関について、訪問もしくは巡回相談による支援を行う。	・12月19日現在、24市町村のうち19市町村においていずれかの機関との連携を取ることができている。残り5町村は、1月中に教育委員会と保健師担当部署を訪問し、本校の行っているセンター的機能について説明し、活用をお願いするとともに、管内の様子について情報収集をした。	A	・併置のメリットかつ視覚障がい支援等で最大の情報提供・発信ができる視点から、学校の重要性は高まる。 ・関係機関との連携を一層深め、保護者、県民へ広く学校の存在、機能をアピールしてほしい。	・見え方に困難のある幼児・児童生徒の支援を広げるために、本校が支援できる内容や見え方の観察ポイント等を教育機関や保健福祉機関、医療機関に具体的に周知し、連携を取ることができるようにする。 ・サマースクール等を通じて、見え方に困難のある幼児・児童生徒の学習に有効なツールの紹介を行い、実際の学習場面で使うことができるよう支援する。
	・サマースクール、ウインタースクールを開催し、視覚支援学校以外の学校で学ぶ視覚障がいのある児童生徒等の仲間作りを行う。	・サマースクール、ウインタースクールへの参加者アンケートにおいて80%以上から「よかった」「まあまあよかった」「あまりよくなかった」「よくなかった」のうち、「よかった」の評価を得る。	・サマースクール、ウインタースクールともに、参加した児童、保護者、担任の全員から「よかった」の評価を得ることができた。			

重点課題	③地域とつながる 特別支援教育センターとして、視覚障がい等のある幼児・児童生徒に対する専門的な支援を全県展開するとともに、障がいのある方の交流拠点として、生涯をとおした活動を支援する。また、防災避難施設として地域の方々の安全を守る。					
重点目標	⑦防災避難施設として、地域の人々と連携した防災訓練等を行います。					
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見		
渉外・安全課	・地域の防災避難施設としての役割を果たすため、地域住民と連携した防災キャンプを行う。	・町内会長や、自主防災組織など地域住民と密に連携を図り、地域住民の防災キャンプ参加者が20名以上となる。	・町内会長、自主防災会長及び婦人会会長と5回ぐらい話し合いを持ち、防災キャンプの運営を話し合った。また、地域住民の要望により、視覚支援学校や聴覚支援学校の幼児・児童生徒の実態及び接し方等の研修会も行った。こういったことも含め、地域住民との連携がうまくいき、防災について積極的に取り組むことができた。また、30人の地域住民が防災キャンプに参加した。	A	・防災・減災の取り組みは、災害弱者と呼ばれる障がい者(児)にとって重要。目標としている地域社会と連携した学校の取り組みが評価されている。共に生きる、地域と一体となる学校として引き続き事業に取り組み、この評価を継続してほしい。	・次年度、防災キャンプ事業は行わないが、今回の連携を活かし、地域との関わりを継続できるように、地域の方と一緒にいる炊き出し訓練等、単発でできる訓練を計画していきたい。 ・今後も、継続して、毎年3回以上の、合同の避難訓練を行いたい。アンケートによる課題点も今回ほぼ改善された。来年度訓練を実施し、今年できていなかった運動場への避難等も含め、課題点を見つけていきたい。
	・聴覚支援学校と連携を図り、防災訓練(火災、地震・津波、不審者対応)を行う。	・聴覚支援学校と連絡を密にして計画を立て、年3回以上合同で避難訓練を行う。訓練を通して、緊急時の避難に際しての課題点を探る。	・両校で多くの話し合いを持ち、連絡を密にすることができた。その結果、火災による避難訓練を1回、地震津波による避難訓練を2回実施することができた。また、避難訓練の後、アンケートも取り、車椅子が移動しにくい場所があることや、屋上までの避難経路の表示がわかりにくいなど、避難に対しての課題点も見つけることができた。その改善も早急に行うことができた。		・参加者が30人もいたことは地域とのつながりが進んでいると感じた。 ・こうした実体験を通じての関わりにより、防災、減災への対策としてだけでなく、草の根運動的に障がいの理解を深めることになる。 ・聴覚との合同での防災キャンプはよかった。助け合いながら一緒に逃げるために、日ごろから交流を深め、連携をしてほしい。	

重点課題	③地域とつながる 特別支援教育センターとして、視覚障がい等のある幼児・児童生徒に対する専門的な支援を全県展開するとともに、障がいのある方の交流拠点として、生涯をととした活動を支援する。また、防災避難施設として地域の方々の安全を守る。				
重点目標	⑧生涯学習の拠点として、視覚障がいのある人の学びや活動を支援します。				
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
高等部普通科	<p>・公共交通機関を利用して、美術館など地域の様々な施設を訪れ、校内では学びにくい体験や鑑賞をすることで見聞を広める。</p> <p>・公共交通機関を使った校外学習を年3回以上実施し、個々の視覚障がいに配慮した移動手段を学ぶ。</p> <p>・「みんなで創るユニバーサルミュージアム事業」において美術館・博物館との連携を図り、年間3回の活動を実施する。</p>	<p>・2学期までに、JRを利用した校外学習を2回実施した。阿南市科学センターで、科学実験や星の観測を行ったり、山川阿波和紙伝統会館で、葉書作りや藍染めを体験したりした。移動には、事前にJRの帰時刻表や運賃を調べておいたり、単眼鏡を活用したりして移動ができた。3学期には、お別れ校外学習を実施しiPadで調べ学習を行った。</p> <p>・美術館での作品鑑賞2回、博物館での展示物の触察などの活動を1回実施した。彫刻作品や実物と同じ大きさのレプリカなどを触り、その感触や大きさ・重さを体感することができた。また、視覚情報の取り方や取りやすさについて、意見を出すことができた。</p>	A	<p>・交通機関の利用については、生徒の学習経験だけでなく、町づくりする側、交通機関関係者にも、必要な支援を知ることのできる機会になるため、複数回の実施に賛成する。</p>	<p>・修学旅行や校外学習の事前学習に、iPadを活用し、より主体的に学ぶ姿勢や技術を身につけさせる。また、事後学習においても、ICT機器を活用しまとめたり、まとめたものを発表したりするなど、さらに充実した活動を目指す。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">高等部職業学科</p>	<p>・美術館や博物館の活用をとおして、視覚障がい配慮した事項などを発信し、自己の充実・啓発や生活の向上を図る。</p>	<p>・「みんなで創るユニバーサルミュージアム事業」において美術館・博物館との連携を図り、年間2回の活動を実施する。</p>	<p>・美術館・博物館への見学及びワークショップ参加を1回行った。事前・事後の活動として美術館・博物館からの質問事項に答えたり、視覚障がい配慮した事項についての意見や希望を出した。ワークショップの中では、美術館・博物館員との話し合い・意見交換もでき、連携を図ることができた。</p>	<p style="text-align: center;">B</p> <p>・「本物を知る、体験する」機会は大切だと感じているので、美術館等との連携による実施内容、次年度への方策には賛成する。 ・評価は「B」であるが、情報交換、意見・希望の伝達など事前の準備活動が活かされ、当日の活動に至ったことがよくわかった。 ・カリキュラム上のやりくり(実施時期、時間)や担当者との調整などがあるので、次年度実施する際には、回数の確保というより、事前・事後活動の充実に焦点をあててはどうか。</p>	<p>・これからもユニバーサルミュージアムに関心を持ち、視覚障がい配慮したミュージアムが完成されるよう美術館・博物館と連携を取っていきたい。</p>
--	--	--	---	---	--

重点課題	④心がつながる 思いやりと支え合いの心に満ちた人間性豊かな社会を築くため、学校と保護者、地域、関係機関・団体等が連携し、視覚障がいに関する理解の推進に努める。				
重点目標	②幼児・児童生徒一人一人の人権を最大限に尊重するとともに、全教職員がいじめのない学校づくりに努めます。				
	具体的な活動計画	評価指標	評価 評価指標による達成度 及び活動計画の実施状況		学校関係者評価 学校関係者の意見
				総合評価 (評定)	次年度への課題と 今後の改善方策
生徒活動課	・いじめのない学校づくりに向け、全教職員を対象として、いじめ防止の研修を実施し、徳島県いじめの防止等のための基本方針と、本校のいじめ防止基本方針を確認する。	・いじめ防止基本方針について、どれだけ確認できたか、実施後のアンケートにおいて、教職員の「いじめ防止の意識が向上した」という回答を60%以上得る。	・研修を1回実施した。その後のアンケートで、「意識が向上した」「意識がやや向上した」との評価を100%得ることができた。研修後も意識の向上に努めた。	A	・評価表全体にも示されるように、教職員が総力上げて幼児・児童生徒に関わっていることが、現在のいじめのない学校づくりにつながっていると感じる。 ・引き続きいじめのない学校づくりが目指されること、もし発生した際には速やかに対応されるであろうことが期待できる。 ・卒業後など、教職員の方々のいない場でもいじめの被害に遭わないように、そうなっても本人が対処できるような取り組みも行うことを期待する。
	・本校のいじめ防止基本方針を学校ホームページに掲載する。	・学校いじめ防止基本方針をPDFファイルでホームページに掲載する。	・本校のいじめ防止基本方針をPDFファイルにしてホームページに掲載し、啓発を図った。		
	・全教職員でいじめ防止に取り組むとともに、いじめの事案の発生については、早期発見と早期対応を行う。	・いじめの事案の発生をとらえたときには、できるだけ早く事態を把握するとともに、生徒指導委員会等を通して対策に努める。	・いじめの発生は12月1日現在見ていないが、引き続き、早期発見と早期対策に努める。		

人権・キャリア教育課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標語, ポスターなどの作品の出品を通して, 人権意識の高揚をはかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳やホームルームの時間を利用して作成を支援して, 児童生徒が年間を通してひとり1作品の出品をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期欠席者を除き, 児童生徒がポスター, ショートメッセージなどを作成した。8割の作品に友だちを気遣うなど, 周囲に感謝を表わした表現が見られた。作品を披露する機会として関係機関へ応募をした。</li> </ul>	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な人権問題について, 講演会や授業を通して情報を提供を行い, その振り返りとして作品の作成ができるように環境を整える。作成過程で人権意識の高揚を図ることをめざし, 計画的に取り組めるように, HR担任や教科(国語, 美術, 道徳など)担当者との連携を図る。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育に関する講演会を通して, 身近な人権問題を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等部生徒を対象に9月中に講演会を行い, 70%以上の満足度を得る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「インターネットによる人権侵害」と題して, 徳島県人権教育指導員である湯浅先生を講師に迎え9月29日に講演会を実施した。アンケート回答者のうち86%の満足度を得ることができた。</li> </ul>			



重点課題	④心がつながる 思いやりと支え合いの心に満ちた人間性豊かな社会を築くため、学校と保護者、地域、関係機関・団体等が連携し、視覚障がいに関する理解の推進に努める。					
重点目標	⑨奉仕活動や啓発活動を通して、地域とのつながりを深めるとともに、視覚障がいに対する理解の推進を図ります。					
	具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	
			評価指標による達成度 及び活動計画の実施状況	総合評価 (評定)		次年度への課題と 今後の改善方策
高等部 普通科	・学校周辺の清掃活動を通して、地域の人々と交流する。	・自立活動や総合的な学習の時間等に、二軒屋駅や近隣の清掃を年間5回以上行う。	・二軒屋駅や近隣の清掃活動を2回行い、たばこの吸い殻やごみを拾い集めた。また、11月からは、週3回、近隣の落ち葉の掃き掃除を行っている。しかし、地域の人々と交流することはあまりできなかった。	B	・この重点目標については、目標達成が厳しい状況と推察されるが、次年度での展開に期待する。	・清掃活動だけでなく、あいさつを心がけ地域の人々との交流を大切にする。
高等部 職業学科	・本校生徒が、臨床体験を通して地域住民とのふれあいの中で相互理解を深める。	・アンケートで70%以上の人が視覚支援学校の理解が深まったと回答する。	・アンケートでは、「理解が深まった」「まあまあ深まった」という回答が100%であった。	A	・社会人として再出発や初めて職業人となる生徒にとって、自らも社会に対して、障がいに対する理解推進に努めることができるよう引き続き学校で取り組んでほしい。この後も地域住民との積極的な交流の場を設定してほしい。 ・臨床体験を通じて、町民の理解が深まっている。社会への窓口であり、体験の場で、施術を受けている人と交流がある。幼・小・中でも交流の機会があればよいのではないかな。	・引き続き、校外臨床実習等を通して、地域貢献と共に、本校への理解啓発に努めていきたい。